

美術科 学習指導案

指導者 八重樫 英恵

- 1 日時 平成25年10月10日(木) 5校時 美術室
- 2 学級 1年A組 男子16名 女子12名 計28名
- 3 題材 絵手紙を描いて送ろう 「水彩で表す」

4 題材について

(1) 学習材について

美術科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」とある。絵手紙を学習材として取り上げたのは、「自分の思いを水彩画という手段で表現し、しかもその思いを相手に伝える」という手紙にすることで、個々の思いを大切に扱うことができ、「創造の喜びを味わう」につながると考えたからである。また、絵手紙の制作は「美術を愛好する心情を育てる」ための、「楽しい」「考える」「時のたつのを忘れて夢中になって取り組む」などの感情や主体的な態度を養うことにつながり、能動的な学びにもなるとともに、生涯学習の一環にもなると判断したからである。絵手紙は相手に送る楽しみ、相手から返事が来る楽しみ、はがきという小さい画面の中に大胆に自由に水彩表現できる面白み、伝えたいメッセージ(言葉)を考える楽しみなど、夢中になれる内容が盛りだくさんに詰まっている教材でもある。また、水彩画の基礎的・基本的な知識・技能を学べる大切な教材でもあり、用具の使い方や混色の工夫を身に付け、今後の創造活動に活かせる学びの場となる。

(2) 生徒について

生徒たちは、小学校で既習学習として水彩画は行ってきている。しかし、図工は好きだが上手にできないから苦手だ、という意識を持つ生徒も少なくない。中学校美術の授業では「うまい下手ではない。よい作品をつくることが重要なのだ。」と示し、「よい作品」「そうでない作品」の例を説明した。生徒たちはよい作品をつくることに積極的に取り組んでいる。美術の授業は楽しいと感じている生徒が多く、美術室に来るのも早い。素直でまだまだ幼さが残る1年生だが、教師の話をよく聞いて向上しようという姿勢が見られる。積極的に発言や質問できる生徒たちである。何よりも楽しくやろうという前向きな集団であり、男女の仲もよく、お互いのよさも認められる雰囲気もあるので、明るく授業も進められる。その反面、造形用語・言語の理解力が低く、作業の手順の説明など指示を分かりやすくする必要がある。造形言語に乏しい部分もみられるので、言語表現という面でも自分の思いや考えを言葉にして表現できるよう指導していく必要がある。

(3) 指導について

今回の授業では、「はがき」について学ばせたい。日本では、季節ごとに挨拶のはがきを出す風習があるが、生徒たちの中には、年賀状を出したことがない生徒もいる。メールやラインなどインターネットを自由に使いこなす昨今だからこそ、手作りの温かみのある絵手紙に触れさせたい。作品をつくるだけでなく、思いを相手に伝えることを大切にし、モチーフから感じ取った印象を大事に制作させたい。そして絵手紙を送った相手から返事が来るわくわく感やドキドキ感など「返事の来る楽しみ」を味わわせたい。

5 題材の指導計画(計10時間)

《観点》 = 《関：美術への関心・意欲・態度 表：発想や構想の能力・創造的な技能 鑑：鑑賞の能力》

到達目標		
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力・創造的な技能	鑑賞の能力
関① 水彩画のよさを感じ取るうとしている。 関② 自分が感じ取った形や色を水彩画で表現しようとしている。 関③ 絵手紙に思いを込め、相手に伝えようとしている。	表① 水彩画の表現方法を工夫し、感じ取った思いを表現できる。 表② 絵手紙の制作手順を理解し、自分で制作することができる。	鑑① 水彩画の作品を鑑賞し作者の思いを感じることができる。 鑑② 自他の作品を鑑賞しお互いのよさを認め合うことができる。

学習内容と具体の評価規準		
学習活動と時数	B：おおむね満足できると判断される状況	A：十分満足できると判断される状況
【水彩画の鑑賞】 (1) 1/10 2/10 水彩画の作品を鑑賞する。	作品から感じたことを自分なりに文章で書くことができる。(関)	作品から感じたことや作者の思いを文章で書くことができる。(関)
【絵手紙】 (2) 3/10 面相筆での線がきに挑戦する。	面相筆を使って、いろいろな線を描くことができる。(表)	面相筆の使い方を工夫しながら線を描くことができる。(表)
(3) 4/10 混色と水彩の技法に挑戦する。	3原色を使って混色できる。(表)	3原色を生かして混色し、表現したい色を作り出すことができる。(表)
	透明水彩の方法を知り、いろいろな技法で色彩できる。(表)	水加減を工夫し、透明水彩の技法で表現したいイメージに色彩できる。(表)
(4) 5/10 前時までの練習をいかし、絵手紙の制作をする。	与えられたモチーフを使って絵手紙を制作することができる。(表)	与えられたモチーフで構図を工夫し絵手紙を制作できる。(表)
(5) 6/10 モチーフから感じた取った形や色を自分なりに表現する。	自分でモチーフを選び、感じたままに水彩表現できる。(表)	自分でモチーフを選び感じた思いを自分の主題とし、表現したいテーマを考えながら描くことができる。(表)
(6) 7/10 自分でモチーフを準備し、手紙をもらう人の気持ちを考えながらメッセージを書く。	絵手紙にメッセージを書き込むことができる。(関・表)	絵手紙に自分の思いをメッセージとして書き込むことができる。(関・表)

<p>(7) 8/10 (本時)</p> <p>自分が感じたままに表現でき、自分の送りたい相手に思いを伝える絵手紙を制作する。</p>	<p>送る相手を思い浮かべながら、感じたことを思いのまま描くことができる。自分の思いを相手に伝えようとしている。(関)</p>	<p>送る相手の手紙を読む姿をイメージしながら、描きたいものから感じた思いを自分の主題として表現し伝える努力や工夫をしている。(関)</p>
	<p>自分が感じた色や形を思いのまま描き、透明水彩で表現することができる。(表)</p>	<p>自分が感じた色や形を思いのまま描き、工夫を凝らしたり技法を活かしたりして水彩画で表現できる。(表)</p>
	<p>自他の作品を鑑賞しお互いのよさを認め合うことができる。(鑑)</p>	<p>自他の作品を鑑賞しお互いのよさを認め、書くことができる。(鑑)</p>
<p>【台紙貼り・自己評価】</p> <p>(8) 9/10</p> <p>作品のよさを引き出す展示について考え、台紙貼りする。</p> <p>制作を振り返り、自己評価する。</p>	<p>作品を台紙に美しく貼るとともに、制作を振り返って自己評価できる。(鑑)</p>	<p>作品をどう展示するかをイメージし台紙貼りを工夫できる。また制作を振り返り自己評価や感想が書ける。(鑑)</p>
<p>【作品鑑賞会】</p> <p>(9) 10/10</p> <p>作品鑑賞をし、それぞれのよさを味わう。</p>	<p>自分の作品を発表し、他の作品のよさを感じることができる。(鑑)</p>	<p>自分の作品の見て欲しいところを発表し、作品の紹介ができる。他の作品のよさを見つけ学習プリントに書くことができる。(鑑)</p>

6 本時について

(1) 到達目標

【関心・意欲・態度に関する目標】

- ・感じたことを思いのまま描くことができ、自分の思いを相手に伝えようとしている。

【表現(発想や構想の能力)に関する目標】

- ・自分が感じた色や形を思いのまま描き、透明水彩で表現することができる。

【鑑賞】

- ・自他の作品を鑑賞しお互いのよさを認め合うことができる。

(2) 評価の方法 (具体の評価規準)

規準 観点	A=十分満足できると判断される状況とその例	B=おおむね満足できると判断される状況とその例	C=努力を要すると判断される状況の生徒への指導の手立てとその例
関	Bに加え、送る相手を思い浮かべながら、感じたことをどう表現しようか考える。 ○自分なりの主題を決めて取り組もうとしている。	送る相手を思い浮かべながら、感じたことを思いのまま描くことができ、自分の思いを相手に伝えようとしている。 ○感じたことやどう表現しようか自分なりにノートに書くようとしている。	対象から感じ取ったことはどんなことか、自分の言葉で確かめさせる。 ○自分なりに感じたことを、助言しながらノートに書かせる。
評価手段：取り組み姿勢 口頭確認 作品			
表	Bに加え、自分の仕上げたいイメージを大事にして表現することができる。 ○どのように描こうか構想を考えながら、楽しみながら描いている。	自分が感じた色や形を思いのまま描き、透明水彩で表現することができる。 ○はがきにモチーフから感じ取った印象を水彩で描いている。	思いを聞き助言するとともに、筆使いや混色について確認させる。 ○今までの学習を振り返り、一つひとつ確認させながら描かせる。
評価手段：作品			
鑑	Bに加え、作者の思いを感じ取ることができる。 ○他の発表を聞き、作品の中のどこに作者の思いが込められているか感じ取っている。	自他の作品を鑑賞しお互いのよさを認め合うことができる。 ○他の人の絵手紙を鑑賞してよいところを書いている。	どんなよさがあるか、他の人の意見を参考にさせる。 ○絵手紙を鑑賞して、よさはなにか他の人の意見を聞きながら自分の考えを書かせる。
評価手段：発言姿勢 学習シートの記述内容			

(3) 授業構想(研究内容との関連)

ア 学習課題の設定理由

「目標と指導と評価の一本化」を念頭にして、到達目標を「感じたことを思いのまま描くことができ、自分の思いを絵手紙にして送ることができる。」と設定し、水彩画の基本を学びながらそれを生かし、自分なりの工夫を取り入れ、思いを大切に取り組みせたいと考えた。そのために筆使いや混色について基礎的・基本的な知識・技能を指導し、絵手紙としてどう

表現したいのか個々の思いを大事に取り組みせたい。思いを大事に、手段を得て取り組みれば、絵手紙の楽しみを味わわせられると考えた。

イ 見通しのもたせ方（予想・方法選択・モデル理解等）

「本時の学習は何なのか、何を学ぶのか」を美術室に入ってすぐ把握でき、意欲をもって取り組めるよう学習課題などの板書をしておき、見通しをもって制作を進められるよう配慮する。言葉での説明に加え、視覚的手段を利用し、特別支援の生徒も迷わず制作できるよう配慮したい。課題解決のため自分自身で試行錯誤を繰り返させたり、お互いの作品のよさを認め合ったりしながら、能動的なかわり合いをもつことで学習への意欲につなげたい。

ウ 個々の課題追究の場面

モチーフとするものを自分で準備し、対象から感じたことを自分がどう表現したいか各自主題設定させて制作に取り組ませる。

エ 能動的なかわり合い

制作中にお互いの作品を参考にできるようにグループ形態で授業を行い、楽しく和気あいあいと取り組ませながら、他の作品からよいところを学び取れるようにさせる。また、自他の作品を鑑賞し合うことで、自分との違いや作者の思いなどを感じ取らせ、能動的な学び合いの場としたい。

オ まとめの仕方

3原色での混色による彩色や、送る相手に自分の思いを伝えるためにどんな工夫や努力ができたかまとめる。

カ 自己評価の仕方

1時間の制作を振り返り、目標達成に近づくよう努力や工夫ができたか自己評価させる。

(4) 展開

段階	学習過程 ★生徒個々の意識や能動性	学 習 活 動	
		生徒の活動(○主発問等●具体的な活動)	・指導上の留意点 【教材教具、資料等】 ◆評価
導 入	1 振り返り ★絵手紙に取り組むぞ ★どうやるんだろう ★主題を確認しよう	1 宿題の確認をしながら、本時の学習内容を確認する。 ●各自美術ノートで確認する。	・自分で準備したモチーフとそれをどのように表現したいかの主題設定を確認させる。 【美術ノート】 ◆関
	2 見通し確認 ★今まで何をやったかな ★どんな1時間なのか	2 学習の流れと評価方法を確認する。 ●1時間で作品を仕上げることを確認する。 ○これまでの授業で積み上げてきたことを活かす、集大成の時間です。	・これまでの練習を思い出させる。 【スケッチブック】
	3 課題把握	3 本時の学習課題を確認する。	

10分	学習課題 感じたことを思いのまま描き、自分の思いを絵手紙にして送ろう。		
展 開 30分	4 予想 方法選択 モデル理解 ★絵手紙の完成をイメージしよう ★今まで習得した技術をどう活かそう	4 今までの練習を振り返り、感じたことをどう絵手紙に表現しようか考える。 ○自分のモチーフをよく見て、じっくり見て、それを絵手紙を送る相手にどう伝えるか考えながら制作しましょう。 ●モチーフや、ノートをよく見て確認する。 ●他の人の考えを聞く。	・宿題でやってきた内容をもう一度個人で確認し考えさせる時間を取る。 ・何人かに発表させる。 【美術ノート】
	5 個々の課題 追究 ★自分なりに頑張るぞ	5 絵手紙に挑戦する。 ●制作に打ち込む。	・制作させる。 【水彩道具一式】
	6 能動的なかわり合い ★そうやればいいのか、自分もやってみよう。 ★よし!できたぞ	6 制作しながら他の作品を参考にし、自分に取り入れる。 ●試行錯誤しながら絵手紙を仕上げる。	・自己の制作に没頭しながらも、他の作品を参考にさせ、自分の作品に活かさせる。 ・彩色を終了し、伝えたいメッセージを書き込ませる。
	7 課題解決 ★仲間のそれぞれの思いを聞きたい ★認められたい	7 課題を解決する。 ●絵手紙を送る相手を紹介し、絵手紙を仕上げてみての今の思いを発表する。	・発表させる。 ◆表
終 末 10分	まとめ 感じたことを思いのまま表現するには、モチーフをよく観察し、感じ、どう表現したいか(何をどう伝えたいか)を考えて、水彩の技法を活かして描くことが大切である。		
	9 自己評価 ★本時の目標は達成できたかな ★みんなはどうかな	9 自己評価する。 ●ノートに自己評価を記入する。 ●絵手紙を仕上げてみての、今の思いを書く。 ●発表する。	・ABCDで評価をさせる。 ・思いを書かせる。 【美術ノート】 ◆鑑
10分	10 次時予告 ★次は台紙貼りだな! ★今日は頑張ったぞ、褒められたぞ	10 次時の学習予定と今日の授業評価を聞く。	・次時の確認をさせる。 ・頑張った自分を褒めさせ、自信を持たせる。送る楽しみを持たせる。